

<報道関係各位>

2020年7月21日  
ギリアド・サイエンシズ株式会社

当資料は、米国ギリアド・サイエンシズ社が、2020年7月21日（現地時間）に発表した英文プレスリリースを日本語に翻訳、一部編集したものです。正式な言語は英語であり、その内容ならびに解釈については英語が優先いたします。

## ギリアド・サイエンシズ ティゾナ・セラピューティクス社の3億ドルでの買収に向け 独占的オプション権を取得

- ーギリアドはティゾナ持分の49.9%を取得する見込みー
- ーギリアドはオプション行使料ならびにマイルストーン報酬として  
最大で12.5億ドルで残る株式を買い取る権利を取得ー
- ーギリアドは研究開発に資金を提供しティゾナのファーストインクラスの  
パイプライン開発を加速ー

ギリアド・サイエンシズ（本社：米カリフォルニア州フォスターシティ、ナスダック：GILD、以下「ギリアド」）は7月21日、ファーストインクラスのがん免疫療法を開発中のティゾナ・セラピューティクス社（本社：カリフォルニア州サウスサンフランシスコ、非上場、以下「ティゾナ」）に3億ドルを投資し、ティゾナ持分の49.9%を取得する予定であることを発表しました。またギリアドはこれに加え、ティゾナの残る株式を最高12.5億ドルで買い取る独占的オプション権を取得しました。この金額にはオプション行使料とマイルストーン報酬を含みます。

ギリアドは、ティゾナが現在開発中の抗体医薬品TTX-080の第Ib相試験のリードアウト後、あるいはギリアドの判断によりこれより早い段階でオプション件を行使することができます。TTX-080はティゾナ社が創出したファーストインクラス医薬品となる可能性のある開発品で、様々な種類の腫瘍に発現する免疫チェックポイントとして新たに発見され、研究が進んでいるHLA-Gを標的とします。HLA-Gの発現パターンはPD-(L)1と異なることが多く、現行の抗PD-(L)1抗体医薬品に反応しない腫瘍に対して有益な治療法となる可能性や、抗PD-(L)1抗体に感受性をもつ腫瘍に対する治療効果を高める可能性があることが示唆されます。

米国食品医薬品局（FDA）は、ティゾナのTTX-080に関する新薬臨床試験開始届（米国IND申請）を承認しており、ティゾナは、2020年第3四半期には進行がん患者を対象にTTX-080の単剤療法と他剤との併用療法を検討する第I相臨床試験を開始する予定です。

ギリアドの会長兼最高経営責任者ダニエル・オデイ（Daniel O'Day）は、「ティゾナは、がん治療に大きな変化をもたらし、現行の免疫チェックポイント阻害薬では効果が得られない患者さんに役立つ可能性のあるファーストインクラスのがん免疫療法を追及しています。ティゾナとの今回の契約により、私たちが2020年上

半期に進めてきたオンコロジーパイプラインの強化と多様化に向けた活動がまた一歩、大きく進むこととなりました。ギリアドは今や、がん治療の向上をもたらす新たな医薬品の開発を進める数多くのチャンスを手にはしています。」と述べています。

ティゾナの最高経営責任者スコット・クラーク (Scott Clarke) は、「ギリアドの支援により、ティゾナはTTX-080臨床試験プログラムを加速し、幅を広げることができるとともに、当社の充実したファーストインクラスの前臨床ポートフォリオの検討やターゲットバリデーションを加速することができます。私たちのミッションは、新たな科学知見をファーストインクラスの免疫療法につなげることにあり、ギリアドは、私たちの科学への熱意とがん患者さんに画期的な治療法をお届けしたいという熱意を共にするパートナーです。」と述べています。

### 本契約について

本契約に基づき、ティゾナの株主は契約成立後に3億ドルを受領します。ギリアドはティゾナの株式の49.9%を取得し、TTX-080の第Ib相試験の完了後、もしくはギリアドが判断した場合はより早い時点で、残る同社株式を買い取る独占的オプション権を取得します。ティゾナの株主は、オプション行使料とマイルストーン報酬として最高で12.5億ドルを受け取る資格を得ます。ギリアドは、ティゾナが現在実施中の研究開発への資金提供を行い、新たなパイプラインの開発を支援します。

本取引は、2020年第3四半期に成立する見通しで、取引完了は米国ハート・スコット・ロディノ反トラスト改正法 (Hart-Scott Rodino Antitrust Improvements Act) に基づく待機期間の満了などの慣習的な買収取引条件を満たすことが条件となります。

取引完了後、ギリアドはティゾナの取締役を2名任命する権利を有します。

ティゾナは、取引完了に先立ち、同社がアッヴィと共同で開発中のファーストインクラス抗CD39抗体TTX-030の事業を独立させ、別企業として立ち上げる予定です。TTX-030は、本契約の対象外です。

TTX-080は現在開発中の新規化合物で、いずれの国でもまだ承認されていません。本剤の有効性と安全性は確立されていません。

ギリアドの財務顧問はCowen、法律顧問は Ropes & Gray です。ティゾナの法律顧問はLatham & Watkins、知的財産顧問はSquire Patton Boggsです。

### ティゾナ・セラピューティクスについて

ティゾナは、臨床段階の免疫療法の開発品を有する非上場企業で、がん患者さんの治療に変革をもたらすファーストインクラス医薬品の開発を行っています。ティゾナは、免疫系を刺激し、免疫抑制性環境に立ち向かう治療法の開発に向けて、科学的発見を治療法につなげる活動を進めています。当社のパイプラインには抗HLA-G抗体であるTTX-080が臨床開発段階にあるほか、充実した前臨床ポートフォリオを有しています。ティゾナは、MPM、Canaan、Abingworth、Interwest Partners、Lightstone Ventures、Amgen Ventures、

Astellas Venture Management、およびAbbVie Venturesなどより出資を受けています。

### ギリアド・サイエンシズについて

ギリアド・サイエンシズは、医療ニーズがまだ十分に満たされない分野において、革新的な治療を創出、開発、製品化するバイオ医薬品企業です。会社の使命は、生命を脅かす病を抱える世界中の患者さんのために医療を向上させることです。カリフォルニア州フォスターシティに本社を置き、世界35か国以上で事業を行っています。ギリアド・サイエンシズに関する詳細は、[www.gilead.com](http://www.gilead.com)をご覧ください。

### ギリアドの将来予想に関する記述

本プレスリリースは、1995年米国民事証券訴訟改革法（Private Securities Litigation Reform Act of 1995）で定義される「将来予測に関する記述」に該当するものが含まれており、次のようなリスク、不確定要素、その他の要因に影響を受けることがあります。このような要因には、本取引が適時完了する能力の有無、TTX-080の臨床試験を想定スケジュール通りに開始し完了する能力の有無、TTX-080の臨床試験の1件または複数で好ましくない結果が得られる可能性、両社がスケジュール通りにマイルストーンを達成する能力の有無、および今回の連携で期待される便益を実現できなくなるリスクなどが含まれます。歴史的事実以外の全ての記述は、将来予想に関する記述とみなしてください。これらのリスクや不確定要素、その他の要因により、実際の結果が「将来予想に関する記述」と著しく異なるものとなる可能性があります。将来予想に関する記述のみに依拠することはお控えください。これらのリスクやその他のリスクについては、米国証券取引委員会に提出している、2020年3月31日を期末とするギリアドの四半期報告書（フォーム10-Q）で詳細に説明しています。将来予想に関する記述はすべて、ギリアドが現在入手できる情報に基づいており、ギリアドは将来予想に関する記述を更新する義務を負いません。